

## 市長と住民のこんだん会「臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう」(報告)

- 1 開催日時：令和4年5月28日(土)午後6時～9時
- 2 開催場所：芳川地区地域づくりセンター・芳川公民館 2階 大会議室
- 3 開催テーマ：芳川わくわくりノベーション
- 4 開催内容：町会活動の様子2町会、地域自治支援交付金活用事例3件
- 5 参加者：26名(会場:19名(発表者12名、傍聴者7名)オンライン:7名)

### 1 市長あいさつからスタート！



### 2 まずは、お隣同士で自己紹介



### 3 町会活動の現状

#### (1) Wi-Fi を活用した長丘町会の取り組み

発表者:長丘町長会長

#### ・長丘町会の課題

高齢化が進み、町会役員の担い手不足  
コロナ禍における町会運営

#### ・解決に向けた取り組み

50歳代で「around 長丘町会を立ち上げ検討開始  
町会細則改正、高速インターネット回線(Wi-Fi)の導入、  
zoom、LINEを導入し会議等で接触回数減  
町内向け広報、議事録、回覧物、役員の仕事内容などをクラウドサーバーで共有管理

#### ・今後の展望

オンラインセミナー、講演会、高齢者向けにもスマホやパソコン講座を企画、実施

#### 【市長コメント】

多くの町会が抱えている問題へのヒントをいただいた。

50代の人たちが仕事と両立しながら地域のことをやろうという気持ちになることは大変だと思うが、いろいろな世代を巻き込みながら解決につながっていくとも思う。

zoom での町会総会など、単に接触を避けるということではなく、本当に集まることが必要なものは集まるが、オンラインでできるようになれば、誰にとってもいいこと。

住民自治局で取り上げ全市的に広げていきたい。



(2)村井町町会組織ならびに運営に関する紹介 発表者:村井町町会長

・村井町町会の概要、組織、運営年間サイクル、月間サイクルの紹介

市内でも最大規模の町会。自治組合数24、隣組数197組

自治組合の中から町会議員1名(戸数の多いところは2名)選出し、町会議会を組織して、町会の方針を最終検討している。

市の広報をホームページで閲覧というアイデアもあるが、町会での配布物があり配布作業は必要なことだと考えている。月の定型業務はそれほど大変ではない。

突発的、非定型的な業務、住民からの要望、苦情や、松本市、外部機関等からの要望、問い合わせ対応が負担を大きくしている。(2件/日対応している。)

・町会長を経験して良かったこと

町会長業務は新たに1つの仕事を与えられたようなもの、やりがいもある。

多くの方と知り合え、村井町のキーとなる方とも知り合えた。

村井町の歴史を知る機会にもなった。

・町会長を経験して感じたこと

定型的なものに対する心理的負担は少なく対応は容易

日頃の町会の活動を周知できるかだと思っている。

携帯電話のセミナーを開いたが、実際に高齢者は電話をかけることも難しく、ホームページ(閲覧)までは難しく、またプル型には限界があり、プッシュ型がいいのではないかと。

年4回3か月間の町会活動内容(リクエスト、実行、実施済み等)を具体的に書くことで理解してもらえるため継続していこうと考えている。ホームページ検討はしているが難しいと思う。

・松本市へのお願い

新しく住まれる方には、町会議員と自治組合長が訪問して町会入会キット(町会紹介資料、年会費、活動内容)を渡し入会のお願いをしている。

弱点は、松本市の公式文書に町会に入会してくださいという記載がないこと。

「義務ではありません」に近い書き方がされている。

広報の配布、補助金を活用し町会に反映しているものは、町会という組織をベースとしてやっている。「義務はないが各サービスの提供にあたっては町会入会を前提としている」ということをうたって欲しい。

【市長コメント】

人口5000人は自治体規模の町会、議会と称する組織があるなどして松本市の中では例外的な町会。

「大きすぎる」ことについては歴史的経緯もあり、住民のみなさんに考え決めていただくものではあるが、5000人規模の町会の中で、どうやって伝達周知させるか、また、住民からの要望には正反対のものもあるだろうと推測する。集約の大変さ、ご苦労されている。

行政として、通常の町会問題とは切り離して考えなければと感じた。

周知伝達する手法は、マンパワーでやろうとすることは難しい。インターネット等伝達共有することが方向性としては必要ではないかと感じる。

規模の大きさから町会を動かしていくためには当然集まってやる必要性もあり、突き詰めていくと規模の問題に至るかと感じた。

町会への加入に対して、町会役員を引き受けていらっしゃるかたには切実な問題、市が向き

合って避けてはいけない問題だと思う。

住民側(住み始める方)の目線に立った時、町会加入は権利として選択できるはず、という意見もあってしかるべき主張。

町会を通じてでなければ受けられないサービスとは何かを突き詰めてお示ししていないところがあると思う。

例えばごみの収集については、町会の皆さんに支えていただかなければならない部分である。また、広報の配布については、「配布物を受け取る権利があるのは町会があるからです」と言われたとき、住民の中には「インターネット通じて取得できる情報であれば、町会加入とは切り離していいのではないか」という意見の人もいると思う。

このあたりが 向き合って整理をしていかなければならないところだろう。

最終的に、私たちは何を目指していくかということから答えを導いていかなければと思う。

これから若い人たちに地域に来てもらって希望通り家庭を築いていただいて、さらに町会が末永く続いていくことが目指すところ。そのためには、実行、見直し、廃止といった整理をしていく必要がある。

町会のサイズが大きすぎると、様々検討して決定することが難しい。村井町町会長さんがご苦労いただいていると感じる。5000人規模を町会という位置づけで続けていくことは持続可能なのだろうか。

新しく来た人達への町会加入について、ある程度の納得感を持ってもらうのは、市がもう少し強く働きかけることで乗り越えられるものなのかどうか、というところは皆さんと議論をしていくことが必要かと感じた。

#### 【村井町町会長】

人口が多いことについて、町会でも議論したが、分割することによるデメリットもあり、スケールメリットも大きく、このサイズでやっていくほうがメリット大と考えている。

休憩時間に、参加者全員で体操



#### 4 地区重点課題及び地域自治支援交付金活用事例

令和3年度地域自治支援交付金を活用し、地域づくりに取り組んだグループからの報告

##### (1) 芳川地域づくり協力隊「芳川いきいきプロジェクト」

地区重点課題である「若い世代の地域参加」に取り組むため「芳川地域づくり協力隊」発足協力隊の呼びかけに応じた若い世代が地域課題について検討して取り組んでいる。

##### ① 芳川まるっと青空市

住民同士の交流を深める目的で企画したイベント

(大学生、市民の感想)

綿あめを配布では形を形成するのは難しかったが、おいしいと笑顔が見られ嬉しかった。焼き芋は、思った以上に喜んでもらえて嬉しかった。次回につなげていきたい。

## ②家族紹介カード

転入者が多くて住民同士の交流が希薄という課題から企画した。

カードに名前、自分の職業、趣味などを書いて隣の方に渡して交流のきっかけを作ってもらうことが目的。

### 【市長コメント】

プライベートに踏み込んで欲しくないという一方で、自分を知ってもらって顔の見える関係をと、潜在的には思っている方が圧倒的に多いのではないだろうか。

自分のことをお知らせしたいなという行動のきっかけになると思う。

紹介カードの項目に、似顔絵とか写真とかもいいし、早く関係を築けるだろう。

今後もどんどんいろんな提案をして欲しい。

## ③ シニアスマホ講座

高齢者は情報難民になりつつある。若い世代がスマホを教えながら多世代交流することを目的として企画。

コロナ禍で若い世代との交流はできなかったが、今後も教え、教わりあう形で開催できたらと考えている。

### 【市長コメント】

若い人たちが使いこなす範囲に比べると50代でもスマホを全然使いこなせていない。

スマホは若い人達が教えてくれる一方で、高齢者が教えられることを伝える。

「教えあう」すごくいい言葉だと思った。スマホやインターネットの話が教えあうきっかけになったらと思う。

## ④ SNS

芳川地区の魅力を発信している。

投稿されている写真は、地域の方が撮影されたもの。

### 【市長コメント】

SNS、インターネットは基本的に端末が用意できたら無料で共有することができるというメリットがある。

本当に有効に使えるようになれば、地区単位とか町会単位でいろんなことが共有される。楽しみながらやっていただければと思う。

## ⑤ フォトコンテスト in 芳川

コロナ禍ということもあり、直接的に交流ができないことを解決したいと思い、間接的に交流できる機会を設けようということで企画した。

賞品を設けずに参加してもらおう形になっている。

(市長へ質問)

現在募集しているが参加者がまだ一人、どのようなコンテンツで周知するべきか。

### 【市長コメント】

インターネット、スマホを通じて情報を得ることが限定的だとするなら、紙の媒体を通じて周知ということもある。

市のLINE公式アカウントがあるが、それはプッシュ型で情報を送っている。  
登録者には自動的に情報を送ることができ、かなり情報伝達力の強い媒体となっている。  
芳川地区を登録してもらっている人には、それを活用することも一つの方法。  
SNSの登録者数が増えていくと情報を伝えられるようになる。  
フォトコンテストが情報をつなげるための手段となるよう盛り上げて欲しい。  
景品をあえて設けない理由、狙いは？

(学生回答)

お金や物がもらえるから何かしようというのではなく、地域の交流の場として企画した。

【市長コメント】

精神は素晴らしいが現実には厳しいかもしれない。お金である必要はないと思うが、サービスや得られるものがあることで、動機付けにつながるのではないかな。

(プロジェクト参加市民コメント)

大学生や高校生の意見は、非常に柔軟で、そういう伝え方があるんだなと感心している。  
いい経験をさせてもらっている。

若い方と年配のかたの交流と、地域活動に参加してもらうとか、まだまだ難しいなと感じているが、良い意見を出してもらっているので、サポートできるよう頑張っていきたい。

## (2) 巾下益々美化委員会 H.H.L

(巾下常会に住む女性を中心となって環境美化活動をしているグループ)

令和3年度地域自治支援交付金活用、3か所のゴミステーションにバラのプランター設置・バラを通じて交流が生まれ、環境美化への意識向上を目的として実施した。

今年度は、活動拡大し巾下公園に、松本国際高等学校生徒、芳川いきいきプロジェクトとともに、バラの植樹を実施。(9種類14鉢のバラを植樹)

草の除草や作業で出た石の処分などは手がかかっている。

作業をしていると通りかかった地域の方から、綺麗に咲くといいですねと話しかけられる。皆さん緑化に興味を持っているのを感じている。

花で明るく美しい景観にすることで、公園利用者の方にも喜んでもらいたいし、公園が活用されるようになって欲しいと考えている。

バラが大きく育って巾下の花の名所になるのではないかと考えて楽しみにしている。

(事務局補足)

巾下公園にバラを植えるにあたり、いきいきプロジェクトの学生から公園に花を植えインスタ映えスポットにという提案と高校生の地域に植樹をしたいという要望を合わせて一つの活動とした。

一つの活動が、いろいろな所に広がっていくという楽しさがある。

(参加した学生感想)

バラを植える話をもらった時、花壇にちょっと穴を掘って植えるのかと思っていたが、大きな穴を掘ったり、石を拾ったり土を入れ替えたり想像以上の重労働だった。

バラが綺麗に咲いたという連絡をもらって、大変だったけれどいい活動だったと感じた。

(植樹をした高校生)

学校の活動として巾下公園にバラを植えさせてもらった。当初は木を植樹する計画だったけれどバラにしたことで、視覚的に楽しんでもらえるし、とてもいい活動になった。

(村井町町会長)

公園に明るい花がなかった。今回植えていただいて良かったと思っている。

また、お子さんが比較的多い場所であるし、幼稚園、保育園の散歩コースだと聞いているので、そういう部分でも本当に良かったと思う。引き続き、よろしく願いたい。

(H.H.Lメンバー)

植えたのは蔓バラ、来年、再来年とますますゴージャスになるので、楽しみにして欲しい。

(H.H.Lメンバー)

出身地では、こういう活動は行政がやっているの、最初は一般市民がやっていいのだろうか戸惑いがあった。

自然の中に触れ合うことを覚えて、人生が少し前向きになったよう気持ち。

出身地では公園だったところは駐車場に変えられている。

こういう環境がある松本の人は恵まれている。せっかくだから皆で公園を使いましょう。

【市長コメント】

村井町の名所と言われるくらいになるよう、取り組んでいただきたい。

大学生や高校生が参加をしている、若い人たちが参加をしてくれ、多世代の参加があるということが活気、長続き、持続可能ということにつながっていくと感じた。

村井町の誇りであり、立ち寄りた場所になっていくよう期待している。

(町会住民)

バラ植えに参加したことで公園にも気持ちが向くようになった。草取りのことも気にかけていきたい。



### (3) 芳川地域づくり協力隊「野溝箒プロジェクト」

作り手が減少している「野溝ほうき」について継承への住民の思い。

(農村女性協議会)

農村女性協議会は、芳川小学校スクールファームの支援を行っている。

野溝ほうきは昔から松本にあり野溝で作られていたということを聞いている。

野溝ほうきは丈夫で長持ちするが、作る方がいなくなっている。

スクールファームでは裏方だが、自分たちでも箒を作ろうということで、畑で材料となるホウキキビづくりから始め、公民館で箒づくりを教えてもらった。野溝箒を残していきたいという農村女性の思いとともにプロジェクトに参加している。

(野溝ほうき作り手)

野溝ほうきを作っていた長老に誘われスクールファームで教える活動をするようになった。作れる方は亡くなってしまい、現在は2、3人くらいになっている。このままでは廃れていってしまうことを懸念していて、子供たちに教えながら継承してくれる人が1人でも2人でも出てきてくれたらと願っている。地域でも箸づくりをしてみたいという人が2、3人いて継承していけたらという思いでいる。売るにはまだ自信はないが精進していきたい。

(事務局)

プロジェクトの始動にあたり道具の提供を呼びかけ、ご主人の形見である作業台だが、ぜひ使ってほしいと提供を受けた。

(大学生)

機械で種を撒いたので楽に終わったが、これから芽がでてくるのを楽しみにしている。

【市長コメント】

材料の収穫までが7割というお話だが、作るときはどのくらいでできるのか。

今回の栽培でどのくらいの数の箸が作れるのか。

(作り手回答)

収穫して2、3日天日干し、あとは風通しのいい場所で陰干しする。箸は半日で作れる。

今回の栽培では、荒神箸を一人1、2本作れる予定。(メンバーは15名)

【市長コメント】

種まきから最終形まで体験するのは大変なこと、本当にできた時の充実感、満足感は高いだろう。ぜひ、できあがった時には市長室へも飾らせてほしい。

## 5 その他意見

### ○芳川公園の駐車場について

(市民意見)

芳川公園は環境的に恵まれているが駐車場が少なく、路上駐車などの問題につながっている。駐車場の検討をしてほしい。

【市長コメント】

代替え案、提案はありますか。

(市民回答)

防災倉庫の前にスペースがある。災害時に車の搬入も考えるとその周辺を整備するのが良いのではないか。

(町会長)

南部ブロックでも要望を上げている。引き続き要望していきたい。

【市長コメント】

町会に入ると、こういう声を届けやすくなり課題を解決することにつながっていく、それが町会に入ることの意味につながっている、ということになっていくと良い。

地域拠点の強化、芳川地区は人口に比例する取り組みを広げなければならない地区だが、地域づくりセンター長が役割を果たせるような形につなげていきたい。

【市長コメント(総括)】

松本の他の地域に比べるとポジティブな状況であるが、町会ごとの課題や光と影がある。

子育てについても力を入れるべき場所だと思っている。

最終判断を下すにあたって公平に松本市全体を考えていく立場にあるが、必要性の高い課題は優先順位を見定めてやっていく。

非常にさきやかだったかもしれないが、地域自治支援交付金の活用をされ、そのことがいい意味でドミノになって住民の参加が広がり課題解決につながっていったように、政策を続けていって間違いないなという気持ちになった。

(村井町町会長)

#### ○町会公民館建設費補助について

村井町町会は人口が増えているため新しい公民館を建設する予定でいる。

市の規則として、2館目以降は補助金が8割となっている。町会のサイズに応じて、ぜひ4館目の公民館は100%補助をお願いしたい。

#### 【市長コメント】

公民館の正確なルールは把握していないが、村井町の大きなサイズに即した施設、仕組みがあって然るべきと思う。

役所のルールから、職員は例外を作ることはできない。職員はルールに沿って仕事をする。議会が賛成することが最終であるが、その前過程の市役所の中で最終的な決定する立場として思うことは、原則は原則、例外をつくるに価する必然性があれば、例外を作っていくのは私の仕事だと思っている。

村井町の人口の大きさと照らした場合、ルール以外の対応を考える必要もあると、お話しを受けて感じた。

(以上 閉会)



#### 【参加者の声】

臥雲市長に直接活動や思いを伝えることができる場は貴重だと感じました。

自分の所属する団体以外の活動内容を知ることができましたし、市長のお話を直接聞くという貴重な体験ができました。

大学生や高校生など若い世代の活躍を伝えることができ良かったです。

和やかな雰囲気でも活発な会で、参加できて良かったです。